

April 13–May 19, 2022

2022年

4月13日(水) ▼ 5月19日(木)

【休館日】5月2日(月)

【開館時間】10時～18時(金・土・曜日は20時まで)

(主催)千葉市美術館(協力)株式会社キヨロク

(観覧料)無料(会場)千葉市美術館さや堂ホール

「生誕100年
清水九兵衛／六兵衛」展
さや堂ホール関連展示

後期

インクルーシブ・サイト

陶表現の現在

2022.5.27 (金) — 7.3 (日)

(休館日)6月6日(月) (開館時間)10時～18時(金・土・曜日は20時まで)

(主催)千葉市美術館(企画協力)藤原彩人(観覧料)無料(会場)千葉市美術館さや堂ホール

Inclusive Site: Expression in Ceramics Today

朱 *Shu*

KIYOMIZU Hiroaki

清水
宏章

「生誕100年
清水九兵衛／六兵衛」展
さや堂ホール関連展示

前期

藤原彩人

FUJIWARA Ayato

北林加奈子

KITABAYASHI Kanako

桑名紗衣子

KUWANA Saeko

土屋裕介

TSUCHIYA Yusuke



FUJIWARA
Ayato

藤原
彩人

1975年京都府生まれ栃木県出身。2003年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。2007年から08年まで文化庁新進芸術家海外研修員としてロンドンに滞在。近年の主な個展に「軸と周囲―姿としての釣り合い―」(gallery 21yo-j、東京、2021年)、「像化―雨の行方―」(同、2019年)など。2021年「土祭2021」アート部門ディレクター。



KITABAYASHI
Kanako

北林
加奈子

1990年東京都生まれ。2016年多摩美術大学美術学部工芸科卒業。2018年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。近年の主な個展に「感応と交信」(MARUEIDO JAPAN、東京、2020年)、「urn:骨壺」(Diego表参道、東京、2019年)、「クリテリオム94 北林加奈子」(水戸芸術館 現代美術ギャラリー、茨城、2018年)など。



KUWANA
Sacko

桑名
紗衣子

1982年千葉県生まれ。2008年武蔵野美術大学修士課程美術専攻彫刻コース修了。近年の主な展覧会に「でんちゅうストラットつながる彫刻」(小平市平嶋田中彫刻美術館、東京、2021年)、「ところぞわ アートの潮流」(所沢市民文化センター・ミュージズ、埼玉、2020年)。2021年に東京都中央区桜川敬老館等複合施設(桜川保育園)エントランスにアートワーク設置。



TSUCHIYA
Yusuke

土屋
裕介

1985年千葉県生まれ。2011年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。近年の主な個展に「arium」(gallery Kasper、神奈川、2021年)、「Mirror」(公津の杜コミュニティセンター、ギャラリー海、千葉・Gallery KIDO Press、東京、2019年)。宮内優里「Beta」(アートワーク、2022年)、映画「悪の教典」(監督三池崇史、2012年公開)作品提供。



北林加奈子(urn_003)2019年 Photo: 荻原素太郎

彫刻と空間の関係を重視した清水九兵衛(1922-2006)が、作品のタイトルに繰り返し使用した「アフィニティ」。「親和」を意味するこの言葉は、現代においてどのような意義を持ちうるのでしょうか。陶を主な表現手段とし、千葉県をはじめ関東圏で活躍する現代アーティスト4名による「インクルーシブ・サイトー陶表現の現在」展は、清水が彫刻家として問いつけた問題を引き継ぎ、その可能性を検証することを目的に企画されました。

千葉市美術館の1階に位置するさや堂ホールは、1927(昭和2)年に川崎銀行千葉支店として建てられ、現在は市の有形文化財に指定されています。建築家の大谷幸夫(1924-2013)は、美術館の建設にあたり、この歴史的建造物を美術館の中核に内蔵する「鞘堂方式」を採用しました。このことから美術館の歩みだけでなく、さや堂ホールは千葉市という都市が重ねた歴史を建物の内部に留めています。

本展では、そのような入れ子状の場であるさや堂ホールを会場に、彫刻家の藤原彩人を企画協力者に迎え、清水の造形思考と空間への新たな解釈を試みます。彫刻と陶芸の境界領域で、比類のない造形を生み出す藤原、陶の素材と技法を通じ、記憶上の場所や記憶の在り方を具象化する桑名紗衣子、断片としての人物像を配置し、空間をつなぎ合わせる土屋裕介、陶に糸や木といった異素材を組み合わせ、かたちの普遍性を探る北林加奈子。4名のアーティストによる作品は、土から造形される彫刻が、外部の環境と決して切り離すことができない事実を私たちに気づかせ、多様な陶表現の現在のありようを指し示すことでしよう。



藤原彩人(像化-軸と周囲-06)2021年



土屋裕介(Less IX)2021年



桑名紗衣子(クジラは、あの日の公園を思い出す。)2021年
中央区桜川敬老館等複合施設(東京)

後期

インクルーシブ・サイトー陶表現の現在

Inclusive Site:
Expression in Ceramics Today

2022
5.27
Fri.
▼
Sun.
7.3

関連イベント

5/22(日) 11:00~16:00
陶器市2022 @千葉市美術館

京都や栃木(益子町)、千葉ほかで活躍する作家による、日常で使える茶碗やお皿などの陶器やアクセサリー類を販売します。託児サービス(事前申込制・13:00-16:00・有料)もご用意しております。

◎1階さや堂ホールにて／入場無料◎協力: BATICA

6/5(日) 14:00~(13:45開場予定)
ワークショップ
石膏で抽象彫刻を作ろう
さや堂ホールを型取る (事前申込制)

千葉市美術館のさや堂ホールの床や壁、柱にあるさまざまな模様やかたちを発見しながら、水粘土と石膏を使って抽象彫刻を作る造形ワークショップです。

◎講師:桑名紗衣子(彫刻家)◎4階市民アトリエにて／定員15名／対象:高校生以上／要参加費
※詳細、申込方法は美術館ホームページをご覧ください。



6/25(土) 14:00~(13:30開場予定)
アーティストトーク
「インクルーシブ・サイト」の問題圏は何か

彫刻家による陶表現の可能性を、清水九兵衛が作品タイトルに使用した「アフィニティ(親和)」の現代的な解釈を通じながら、参加作家にお話を伺います。

◎出演:北林加奈子(彫刻家)、桑名紗衣子(彫刻家)、土屋裕介(彫刻家)、藤原彩人(彫刻家)、森啓輔(当館学芸員)◎11階講堂にて／先着80名(当日12:00より1階にて整理券配布)／聴講無料

6/25(土)16:00~18:00
彫刻おでん屋台
「LA」

アート、デザイン、建築などの思考や技術を横断するユニット「L PACK.」と、藤原彩人が所属するグループ「AGAIN-ST」による彫刻おでん屋台が美術館に登場します。

◎1階「Café de seizon」にて／先着50名／有料(数に限りがあります)◎協力:L PACK.、AGAIN-ST、優雅亭 盛山 千葉市美術館店、Café de seizon、酒彩亭 盛 ※詳細は美術館ホームページをご確認ください。

前期

KIYOMIZU Hiroaki
清水宏章

Shu
朱

2022
4.13
Wed.
▼
Thu.
5.19



清水宏章《朱乱》2021年

1986年に京都清水五条で生まれた清水宏章は、京都を拠点に活躍する若手陶芸作家です。本展「朱」は、関西でこれまで発表を重ねてきた作家にとって、関東での初個展であり、近年取り組む「赤」というテーマをより深化させた、最新作の陶芸作品を発表します。

清水にとって赤は、身体の内側を巡る血のように身近な色であり、一方で危険や熱狂、情熱、幸福など、日常と異なる世界へと誘う不思議な力を持ち合わせています。釉薬の中でも、扱いが難しいとされる辰砂釉をあえて使用し、現代における表現の拡張を目論む清水は、様々な記号が表面で乱れ踊る自身の器物を「朱乱」と名付け、喧騒と静寂という異なる2つの性質から、陶芸の外と内の関係を探ろうとしています。会場に展示される祖父・清水九兵衛(1922-2006)の彫刻とも響き合い、次代を継承していく清水宏章の絶え間ない挑戦が生み出すうつわの造形世界を、ぜひご覧ください。



KIYOMIZU Hiroaki



清水宏章《朱塵》2021年

交通案内

《JR千葉駅東口より》

◎徒歩約15分 ◎バスのりば7番より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分 ◎千葉都市モノレール県庁前方面行「霞川公園」下車徒歩約5分

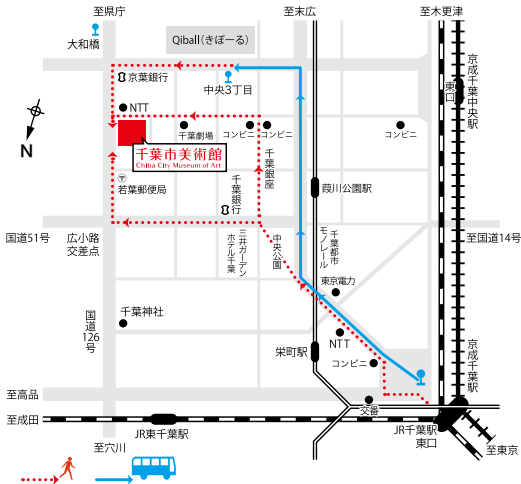
《京成千葉中央駅東口より》

◎徒歩約10分

《東京方面から車では》

◎京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く

・地下に機械式駐車場があります(車高155cmまで)。
・シェアサイクルスポットがあります。



T260-0013

千葉市中央区中央3-10-8

Tel: 043-221-2311(代表)

Web: https://www.ccma-net.jp

※館内に新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っております。体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。咳エチケット、マスク着用、手洗い・手指の消毒の徹底にご協力ください。※内容やイベントが変更になる場合があります。最新の状況はホームページをご確認ください。

結局のところ僕は「人」に興味があるのかもしれない、と最近思います。気が付いたら、「こう使ったらちょっと危ないんじゃないか」「これが家にあったらちょっと危ないんじゃないか」「みたいなことを考えている自分がいます。こう思うと、僕の根っこはアートではなくて工芸なのかな、と思うのです。でも、まっすぐ進むのは嫌で、ついちょっと斜めから見てしまっています。「赤」というのは技術的にも使う上でも色んな意味で難しい、だからこそ惹かれてしまっているのかもしれない。」

清水宏章

同時開催

7・8階企画展示室

「生誕100年 清水九兵衛／六兵衛」

2022年4月13日(水)ー7月3日(日)

休館日:5月2日(月)、6月6日(月)※休室日:5月23日(月)、6月20日(月)

5階常設展示室

「千葉市美術館コレクション選」

休室日:第1月曜日

4階子どもアトリエ

「つくりかけラボ07 植本一子」

あの日のことおぼえてる?」

2022年4月13日(水)ー7月3日(日) 休室日:第1月曜日

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art